

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
大原簿記公務員専門学校大分校	平成26年2月28日	平田 浩司	〒870-0839 大分県大分市金池南1-2-24 (電話) 097-574-6568																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 大原学園	昭和54年4月1日	中川 和久	〒101-0065 東京都千代田区西神田1-2-10 (電話) 03-3292-6266																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化教養専門課程	公務員本科2年制学科	平成27年文部科学省認定	-																							
学科の目的	「教育基本法」、「学校教育法」に基づき、法律及び行政に関する知識、警察官・消防官をはじめとする公務員に必要な知識等に関する専門教育ならびにこれらのビジネスに関する教育を施し、人格の陶冶を行い、もって関連産業に従事する有為な人材並びに社会貢献できる有為な人材を育成する事を目的とする。																										
認定年月日	令和3年3月25日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	昼間	1,700(62単位)	1,611(61単位)	1,898(72単位)	930(31単位)	0(0単位)	0(0単位)																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人	90人	0人	3人	0人	3人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内を行う効果測定、課題の提出等により評価する。学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。授業科目の成績は5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準により GP(Grade-Point)を与える。																							
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月下旬～8月下旬までの約4週間 ■冬季:12月下旬～1月上旬までの約2週間 ■春季:3月下旬～4月上旬までの約2週間 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	■進級の認定基準 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修および単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。 ■卒業の認定基準 修了・卒業の認定は、下記に定める授業時間(単位)の履修及び所定の授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。 公務員本科2年制学科 1,700時間(62単位)																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 無断欠席の場合、電話連絡 本人、保護者、担任による三者面談等		課外活動	■課外活動の種類 フレッシュマン研修 スポーツフェスティバル 地域ボランティア活動 ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 国家公務員、地方公務員等 ■就職指導内容 全体指導によるレクチャー、自己分析面談、個別進路面談、求人紹介、個別面接練習、入社準備プログラム(PCP教育)等 ■卒業生数 35 人 ■就職希望者数 30 人 ■就職者数 30 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 85.7 % ■その他 ・進学者数:2人(社会人講座) ・その他:3人(フリーター2人、独学1人)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般教養力検定2級</td> <td>③</td> <td>35人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>一般教養力検定1級</td> <td>③</td> <td>35人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>漢字能力検定2級</td> <td>③</td> <td>35人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>電卓技能検定2級</td> <td>③</td> <td>35人</td> <td>31人</td> </tr> </tbody> </table> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	一般教養力検定2級	③	35人	32人	一般教養力検定1級	③	35人	19人	漢字能力検定2級	③	35人	33人	電卓技能検定2級	③	35人	31人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
一般教養力検定2級	③	35人	32人																								
一般教養力検定1級	③	35人	19人																								
漢字能力検定2級	③	35人	33人																								
電卓技能検定2級	③	35人	31人																								
中途退学の現状	■中途退学者 2名 令和2年4月1日時点において、在学者78名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者76名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による定期面談(本人および保護者) 担任以外のチーフ・管理職による面談、進路相談(本人及び保護者)		■中退率 3%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ①試験による特別奨学生制度: がんばる人を支援するために「試験による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原独自の特別奨学生試験の結果に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除する制度です。 ②資格・クラブ活動による特別奨学生制度: がんばる人を支援するために「資格・クラブ活動による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原学園入学までに取得した資格や成績を一定のランクに認定し、そのランクに応じて入学金・授業料の全額または一部を免除する制度です。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科のホームページURL	URL: https://oita.o-hara.ac/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である国家公務員・地方自治体に関する有識者である企業等と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②文化・教養分野における学修の中心となる法律、基礎教養力、計数能力は勿論のこと、行政の仕組み、コミュニケーション技術の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

①位置づけについて

教務課の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。

②意思決定の過程について

(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。

(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。

(ウ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、副校長、教務部次長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
姫野 輝彦	社会福祉法人 大分市社会福祉協議会事務局 次長 兼大分市ボランティアセンター 所長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
内野 敏紀	自衛隊 大分地方協力本部 本部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
平田 浩司	大原簿記公務員専門学校大分校 校長	-	
青島 徹	大原簿記公務員専門学校大分校 副校長	-	
木津 郁	大原簿記公務員専門学校大分校 教務部 次長	-	
瀬戸 孝一	大原簿記公務員専門学校大分校 教務部 教務1課 課長代理	-	
掛塚 将之	大原簿記公務員専門学校大分校 教務部 教務1課 課長補佐	-	
高城 昌隆	大原簿記公務員専門学校大分校 教務部 教務1課	-	
松本 良	大原簿記公務員専門学校大分校 教務部 教務1課	-	
楨原 輝	大原簿記公務員専門学校大分校 教務部 教務1課	-	

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年 8月6日 16:00～17:00

第2回 令和2年 12月3日 16:00～17:30

<p>(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況</p> <p>①公務員分野における知識力向上のための教員向け研修の継続実施 地方自治体を専門とした研修及び、コンサルティングを行っている行政マネジメント研究所による研修を継続実施する。またこの研修以外の専門分野に関する研修等があればご教授いただく予定である。</p> <p>②時事問題に関する理解力強化 昨今の地方自治体公務員試験において時事の問題数が増加している背景から、新たな教材を開発し時事の問題に対する理解強化を図る。さらにインプットで終わるのではなく、活きた知識となるように時事問題をテーマにしてディスカッションの導入を図る。</p> <p>③実践的教育における学校と地域の連携強化 社会において自己の果たすべき役割を認識する契機として、ボランティア活動を通じて実社会と接点を持つ機会を検討する。</p>		
<p>2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係</p>		
<p>(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針</p> <p>①文化・教養分野における実習・演習は、企業団体等との連携の下、学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立てを行なう。</p> <p>②企業等との連携による実習・演習を通じて、より実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識向上を実現する。</p> <p>③企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを実務の視点から評価を仰ぐ。</p>		
<p>(2)実習・演習等における企業等との連携内容</p> <p>職業実践の趣旨を公官庁等に説明し、ご理解頂いたうえで協定書を締結、打合せを行い、下記の4点について講義内容の質向上のために連携している。</p> <p>① 実習授業内容構築へのサポート ② 当該実習授業における評価ポイントの確認 ③ 授業方法に関する教員への指導 ④ 学生の習熟状況の評価</p>		
<p>(3)具体的な連携の例</p>		
科目名	科目概要	連携企業等
行政研究	安心安全な街づくりに関する講義を受け、研究および発表を通じて防災への理解を深める	大分県警察本部 生活安全部生活安全企画課

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。「大原学園教職員研修規定」の目的に定めるとおり、教職員が専門分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるために、教員研修の環境を整える。研修については、校内・校外において計画的に行っており、教育責任者の指示又は本人の意思により、公平に受講する機会を与えている。なお、校内、校外において学園が企画する研修は下記のとおり。

- ①企業・団体・学術機関等の講師を招いた知識・指導スキル研修(校内研修)
- ②教育本部・講座本部が主催する知識技能、指導力の向上のための研修(校内研修)
- ③学内に設置する附帯教育講座を利用しての自己啓発(校内研修)
- ④企業、団体等が開催している研修・講義等への参加(校外研修)

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 公務員分野の専門知識向上のための教員研修(連携企業等: 株式会社 行政マネジメント研究所 丸本 昭 様)

期 間: 令和2年12月18日(金)

対 象: 公務員本科2年制学科担当教員

内 容: 昨今の社会環境の変化における行政の役割を地域企業、団体、地域住民との連携事例等から学び、公務員を目指すものに求められる資質を検証する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 指導力の修得・向上のための教員研修

(連携企業等: 別府大学 キャリア支援センター 副センター長 佐藤 敬子 様)

期 間: 令和2年12月21日(月)

対 象: 公務員本科2年制学科担当教員

内 容: コーチングを活用した指導力向上と学生との面談スキル向上を図ることを目的として実施する。コーチングの活用方法や学生との面談時の留意点を学び、ロールプレイングで実践する。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 公務員分野の専門知識向上のための教員研修(連携企業等: 株式会社 行政マネジメント研究所)

期 間: 令和3年12月20日(月)

対 象: 公務員本科2年制学科担当教員

内 容: 近年の変化している社会環境に行政がどのような役割を果たすのかを地域企業、団体、地域住民との連携事例等から学び、採用面接の傾向を踏まえ、公務員として求められる資質等を考察する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 指導力の修得・向上のための教員研修

(連携企業等: 元別府大学 キャリア支援センター 副センター長 佐藤 敬子 様)

期 間: 令和3年12月21日(火)

対 象: 公務員本科2年制学科担当教員

内 容: コーチングを活用した指導力向上と保護者対応力の向上を図ることを目的として実施する。コーチングの活用方法や保護者対応時の留意点を学び、ロールプレイングで実践する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2)学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行う事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4)学修成果	①就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5)学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。

(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行われているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	—

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

在館中に災害が発生した場合の保護者への連絡網なども整備を検討してみてもどうかという意見をいただいた。対応として、有事の際に連絡が行えるよう、大原ポータルという連絡アプリに保護者向けの機能を追加し、今年度より運用を開始した。これにより、書面での案内に比べ、タイムリーに情報を提供できるように改善された。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
姫野 輝彦	社会福祉法人 大分市社会福祉協議会事務局 次長 兼大分市ボランティアセンター 所長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
内野 敏紀	自衛隊 大分地方協力本部 本部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
高見 博之	大分大学 経済学部 副学部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 誠樹	株式会社エイビス 取締役副社長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
山田 敦士	大分シーイーシー株式会社	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
松元 義人	特定非営利活動法人 ヘルス・フィットネス・フォーラム 代表理事	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
辻 直樹	ルネサンス株式会社 スポーツクラブルネサンスおおいた 支配人	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
日隈 心靖	玖珠町役場	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	卒業生
後藤 那菜	株式会社後藤組	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生
永嶋 祥太	ゼビオ株式会社	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	卒業生

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和3年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、関係業界、地域住民、保護者、中学校・高等学校関係者、所轄庁など関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携・協力の推進に資する観点から、積極的な情報提供に取り組む。

②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。

③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①概要 ②教育方針 ③沿革
(2)各学科等の教育	①入学定員 ②受入方針 ③カリキュラム ④進級、卒業要件等 ⑤専門士の称号付与 ⑥目標とする国家試験、検定試験等 ⑦主たる国家試験、検定試験等の合格実績 ⑧卒業生の進路
(3)教職員	①教職員数 ②教職員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育 ②実習・実技等 ③就職支援等
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②課外活動
(6)学生の生活支援	①完全担任制 ②就職教育
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等
(8)学校の財務	学校の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	—
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:<https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程公務員本科2年制学科学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			基礎数的Ⅰ 数的推理	数学的な基礎知識を基に、文章問題を解答する	1前	52	2	○			○		○		
2	○			基礎数的Ⅱ 判断推理	数学的な基礎知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1前	36	2	○			○		○		
3	○			基礎数的Ⅲ 空間把握・資料解釈	数学的な基礎知識や空間把握能力を基に、問題を解答する	1前	44	2	○			○		○		
4	○			基礎社会科学Ⅰ 政治	基本的人権や統治機構など憲法の基礎知識を学ぶ	1前	32	1	○			○		○		
5	○			基礎社会科学Ⅱ 経済	金融政策・財政政策・外国為替など、経済の基礎知識を学ぶ	1前	26	1	○			○		○		
6	○			総合教養演習Ⅰ 基礎教養	模擬試験と解説を通じ、数的推理・政治・文章理解の知識を学ぶ	1前	56	2		○		○		○		
7	○			一般教養Ⅰ	一般教養として、社会で求められる漢字の知識を身につける	1前	30	1		○		○		○		
8		○		基礎演習Ⅰ 数的処理	数的処理の基礎知識をアウトプットすることで定着を図る	1後	40	2		○		○		○		
9		○		基礎演習Ⅱ 社会科学	政治・経済の基礎知識をアウトプットすることで定着を図る	1後	28	1		○		○		○		
10		○		基礎演習Ⅲ 人文科学	地理・歴史の基礎知識をアウトプットすることで定着を図る	1後	28	1		○		○		○		
11		○		基礎演習Ⅳ 自然科学	生物・地学の基礎知識をアウトプットすることで知識の定着を図る	1後	20	1		○		○		○		
12		○		一般教養Ⅱ	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける	1後	30	1		○		○		○		
13		○		ビジネス教養Ⅱ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う	1後	30	1		○		○		○		

14		○	職業実務Ⅰ	実務経験者の講義を受け、研究および発表を通じて地方行政の取り組みを学ぶ	1後	15	1		○	○	○							
15		○	公務員キャリアデザインⅠ	公務員及び民間就職の活動前に基礎的なビジネスマナーや所作を学ぶ	1後	90	3		○	○	○							
16		○	Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用法を習得する	1後	60	2			○	○	○						
17		○	基礎社会科学Ⅲ 社会	労働問題・環境問題など、社会分野の基礎知識を学ぶ	1前	15	1		○		○	○						
18		○	基礎人文科学Ⅰ 地理	気候、地形、世界各国の産業など地理の基礎知識を学ぶ	1前	24	1		○			○	○					
19		○	基礎人文科学Ⅱ 日本史	大和政権から昭和までの日本史を学ぶ	1前	28	1		○			○	○					
20		○	基礎自然科学Ⅰ 生物	生体から自然環境まで、幅広い生物分野を学ぶ	1後	20	1		○			○	○					
21		○	基礎自然科学Ⅱ 地学	地球の内部構造から宇宙まで、幅広い地学分野を学ぶ	1後	16	1		○			○	○					
22		○	基礎言語Ⅰ 文理・国語	文章読解と基礎的な国語を並行して進める	1後	15	1		○			○	○					
23		○	基礎言語Ⅱ 英語	基礎的な英文法を学習する	1後	15	1		○			○	○					
24		○	基礎演習Ⅴ 知能系科目総合	問題演習を通じて数的推理・判断推理の総復習を行う	1前	60	2			○		○	○					
25		○	基礎演習Ⅵ 知識系科目総合	問題演習を通じて知識系科目全体の総復習を行う	1後	60	2			○		○	○					
26		○	総合教養演習Ⅱ 実践教養	模擬試験と解説を通じ、数的推理・判断推理・空間把握・文章理解・政治・経済・社会の知識を学ぶ	1後	56	2		○			○	○					
27		○	ビジネス教養Ⅰ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う	1前	30	1		○			○	○					
28		○	ビジネス文書作成	ビジネス文書を作成する上で必要となるレベルのWORDの操作方法を学ぶ	1後	30	1		○			○	○					
29		○	キャリアデザインⅠ	面接試験で求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ	1後	30	1		○			○	○					
30		○	職業実務Ⅱ	警察署から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う	1後	15	1		○			○	○					

31		○	職業実務Ⅲ	官公庁から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に消防官職種研究を行う	1後	15	1		○	○	○						
32		○	職業実務Ⅳ	現役の消防官をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う	1後	15	1		○	○	○						
33		○	職業実務Ⅴ	官公庁(国家公安職)から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う。	1後	15	1		○	○	○						
34		○	トレーニング実習	トレーニング関連の講義から得た知識を活かした実習を行う	1後	30	1			○	○	○					
35		○	公共ボランティア実習Ⅰ	ボランティアの基本的な在り方を学び、実習も踏まえて理解を深める	1前後	30	1			○	○	○					
36		○	Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	1後	60	2			○	○	○					
37		○	Word応用	PCの基礎操作並びにWordの応用的な操作を習得する	1後	30	1		○		○	○					
38		○	Excel応用	MOS Excelエキスパートレベルの知識・操作に関する総合的な学習	1後	30	1		○		○	○					
39		○	ファイナンシャルプランナー3級	FP3級試験合格のために必要な基礎知識を学ぶ	1後	120	4	○			○	○					
40		○	コミュニケーション概論	グループワークの形式、役割、手法について学ぶ	1前後	30	1		○		○	○					
41		○	事務キャリアデザインⅠ	事務職内定へ向けた身だしなみ、敬語、筆記試験について学ぶ	1前後	30	1	○			○	○					
42		○	事務キャリアデザインⅡ	事務職内定へ向けた職種研究方法について学ぶ	1後	30	1	○			○	○					
43		○	販売知識基礎	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、マネジメントの知識を理解する	1後	90	3	○			○	○					
44		○	販売知識応用	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する	1後	90	3	○			○	○					
45		○	流通キャリアデザインⅠ	販売職・営業職内定へ向けた身だしなみ、敬語、筆記試験について学ぶ	1前後	30	1	○			○	○					
46		○	流通キャリアデザインⅡ	販売職・営業職内定へ向けた職種研究方法について学ぶ	1後	30	1	○			○	○					
47	○		キャリアデザインⅡ	面接試験に向けての準備作業や集団・個人での実践練習を行う	2前	30	1		○		○	○					

48	○		ビジネスマナー	社会で求められる一般的なビジネスマナーと電話対応を学ぶ	2後	60	2			○	○	○					
49	○		パソコン実習 I	社会で求められる一般的なレベルのWordとExcel等の操作方法を学ぶ	2後	30	1			○	○	○					
50		○	応用演習 I 数的処理	問題演習を通じ、数的処理の応用知識を学ぶ	2前	24	1			○	○	○					
51		○	応用演習 II 社会科学	問題演習を通じ、政治・経済の応用知識を学ぶ	2前	28	1			○	○	○					
52		○	応用演習 III 人文科学	問題演習を通じ、地理・歴史の応用知識を学ぶ	2前	30	1			○	○	○					
53		○	応用演習 IV 自然科学	問題演習を通じ、生物・地学の応用知識を学ぶ	2前	16	1			○	○	○					
54		○	公務員時事対策	自然科学から国際問題まで幅広いジャンルの社会時事を学ぶ	2前	30	1	○			○	○					
55		○	公務員適性検査演習 I	公務員試験で重視される事務適性試験の得点を強化する	2前	60	2			○	○	○					
56		○	公務員教養論文対策	公務員教養論文試験対策のレクチャーおよび実践練習を行う	2前	30	2			○	○	○					
57		○	経理実務	経理実務で必要となる業務内容を体系的に学び、特に納税等で用いる帳票書類についての知識を習得するための講義	2後	60	2	○			○	○					
58		○	事務職ビジネスマナー	ビジネス電話対応、接遇に関する実践的な学習をする	2後	30	1	○			○	○					
59		○	給与計算実務	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務を行うために必要な知識を習得する講義	2後	30	1	○			○	○					
60		○	販売職ビジネスマナー	接客に関する実践的な学習をする	2後	90	3			○	○	○					
61		○	マーケティング概論	マーケティングの必要性と目的を学習する	2後	30	1	○			○	○					
62		○	マーケティング基礎	事例研究を通じてマーケティングを演習する	2後	60	2	○			○	○					
63		○	基礎人文科学 III 東洋史・近代史	中国・朝鮮半島の歴代王朝と第2次世界大戦以降の世界史を学ぶ	2前	16	1	○			○	○					
64		○	基礎人文科学 IV 古代史・西洋史	古代およびヨーロッパ世界を中心とした世界の歴史を学ぶ	2前	18	1	○			○	○					

65			○	基礎人文科学Ⅴ 倫理・文学・芸術	西洋および東洋の倫理や芸術、文学を学ぶ	2前	16	1	○			○		○			
66			○	基礎自然科学Ⅲ 物理	基本的な公式を覚え、運動・熱・電気などの仕組みを知る	2前	16	1	○			○		○			
67			○	基礎自然科学Ⅳ 化学	物質の仕組みや物質の変化を知識として深める	2前	16	1	○			○		○			
68			○	基礎数学Ⅰ	基本的な数学計算の能力を身に着け、文章問題を解答する	2前	16	1	○			○		○			
69			○	実践答案練習	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	48	2			○		○		○		
70			○	総合答案練習Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	84	3			○		○		○		
71			○	総合答案練習Ⅱ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	48	2			○		○		○		
72			○	直前答案練習Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	180	6			○		○		○		
73			○	直前答案練習Ⅱ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	102	4			○		○		○		
74			○	直前答案練習Ⅲ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	30	1			○		○		○		
75			○	公務員時事研究	就職先に関連する社会的ニュースを考察する	2後	30	2			○		○		○		
76			○	公務員キャリアデザインⅡ	秋試験10職種に向けた面接指導を行う	2後	120	4			○		○		○		
77			○	公官庁講話	現役公務員の様々な職種の方の講話を聴き職種への理解を深める	2前	20	1	○				○		○		
78			○	公務員倫理	公務人材開発協会より講師をお招きし、公務員に関する法令や服務規程を学ぶ	2前	15	1			○		○		○		
79			○	公共ボランティア実習Ⅱ	ボランティアの基本的な在り方を学び、実習も踏まえて理解を深める	2通	30	1					○	○		○	
80			○	法律研究	民法に関する講義を受け、研究および発表を通じて法律の考え方を学ぶ	2後	30	1					○	○		○	
81			○	行政研究	安心安全な街づくりに関する講義を受け、研究および発表を通じて防災への理解を深める	2後	30	1					○	○		○	○

82			○	Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用法を習得する	2前	60	2				○	○		○		
83			○	Excel応用	MOS Excel試験に合格するために必要な操作に関する総合的な知識を身につけるための演習	2前	30	1				○	○		○		
84			○	Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	2前	60	2				○	○		○		
85			○	Word応用	PCの基礎操作並びにWordの応用的な操作を習得する	2前	30	1				○	○		○		
86			○	Power Point基礎	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作を理解する	2前	60	2	○				○		○		
87			○	Power Point応用	PCの基礎操作並びにPowerPointの応用的な操作を習得する	2前	30	1				○	○		○		
88			○	キャリアデザインⅢ	社会環境を理解し、課題をクリアする力を身につける為の学習	2前	30	1	○				○		○		
89			○	コミュニケーション実践	グループワークの形式、役割、手法について学ぶ	2前	30	1				○	○		○		
90			○	接遇ビジネスマナー	企業内で必要とされる接遇に関する基本的なルールの学習をする	2前後	30	1					○	○		○	
91			○	一般教養Ⅱ	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける	2後	30	1				○	○		○		
92			○	ビジネス教養Ⅱ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う	2後	30	1				○	○		○		
93			○	パソコン実習Ⅱ	Word、Excelを操作し簡単な文書の作成、表やグラフを用いてレイアウトや見栄えの調節を行うためのスキルを身につける実習	2後	30	1					○	○		○	
94			○	パソコン実習Ⅲ	Word：長文を効率良く編集するためのスキルを習得する実習 Excel：目的に沿った編集を効率的に行うためのスキルを習得する実習	2後	30	1					○	○		○	
95			○	パソコン実習Ⅳ	Word：応用的な機能を活用し、効率的に正確なビジネス文書を作成するスキル習得のための実習 Excel：複雑なデータ集計を行うことやマクロ機能を用い、より効率的に編集を行うスキル習得のための実習	2後	30	1					○	○		○	
96			○	プレゼンテーション	企画から発表までの一連の流れ	2前後	30	1					○	○		○	
97			○	会計ソフト実習	会計ソフトを使って基礎的な入力処理を行い、試算表や決算書を作成するスキルを身につける実習	2後	30	1					○	○		○	
98			○	財務会計	財務諸表の作成に関する知識と技術を身につけ、財務会計の意義や制度についての理解を深めるための講義	2後	90	3	○					○		○	

99		○	販売仕入管理	販売、仕入に関する店舗運営上の管理業務に関する知識を習得する講義	2後	30	1	○			○		○		
100		○	時事	現代社会における主要な時事の基本用語を理解し、自分の考えや意見を持つための学習	2後	30	1	○			○		○		
101		○	卒業研究	実店舗を題材にして、課題に対する改善案を提案し発表する	2後	180	6				○	○		○	
102		○	実務会計基礎	財務諸表を理解し、会計の構造を学習する	2前	120	4	○			○		○		
103		○	実務会計応用	決算書の構図を理解し、経営活動との関係性を学習する	2前	30	1		○		○		○		
104		○	VBA基礎	Excelの操作に関する実践的な知識を身に付ける学習	2前	60	2	○			○		○		
105		○	ネットビジネス基礎	ネットショップ事務の共通知識、制作・運用に必要な知識を理解する	2前	60	2	○			○		○		
106		○	ネットビジネス応用	ネットショップ検定（レベル1）	2前	60	2		○		○		○		
合計				106科目	4,439単位時間(164単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>(試験)</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内を行う効果測定、課題の提出等により評価する。</p> <p>(学業成績)</p> <p>学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には所定の単位を与える。</p> <p>(卒業)</p> <p>修了・卒業の認定は、下記に定める授業時間（単位）の履修及び所定の授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。</p> <p>公務員本科2年制学科 1,700時間（62単位）</p>	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	27週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。